

被保険者番号

主治医意見書

記入日 令和 5年 3月 1日

申請者	(ふりがな) かみや はなこ	男 女	〒 ××× - ××××
	神谷 花子		○市本町3丁目2番1号
	明大(昭)21年 2月20日生 (77)歳		連絡先 ○○○○ (123) 4567

上記の申請者に関する意見は以下の通りです。

主治医として、本意見書が介護サービス計画作成及び

総合事業における介護予防ケアマネジメントのケアプラン作成に利用されることに 同意する。 同意しない。

医師氏名 長谷川 博

医療機関名 長谷川内科クリニック

電話 ○○○ (123) 1212

医療機関所在地 ○市中央町1-1-1

FAX ○○○ (123) 1212

(1) 最終診察日 令和 5年 3月 1日

(2) 意見書作成回数 初回 2回目以上(3) 他科受診の有無 有 無(有の場合) → 内科 精神科 外科 整形外科 脳神経外科 皮膚科 泌尿器科
 婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 歯科 その他 ()

1. 傷病に関する意見

(1) 診断名 (特定疾病または生活機能低下の直接の原因となっている傷病名については1.に記入) 及び発症年月日

1. 脊柱管狭窄症 (座骨神経痛)、変形性膝関節症 発症年月日 (昭和・平成)・令和 28年 5月 日頃)

2. 陳旧性脳梗塞、糖尿病 (神経障害) 発症年月日 (昭和・平成)・令和 29年 1月 日頃)

3. 高血圧症 発症年月日 (昭和・平成)・令和 15年 11月 日頃)

(2) 症状としての安定性 安定 不安定 不明

(「不安定」とした場合、具体的な状況を記入)

座骨神経痛により、廃用が進行しているため。

(3) 生活機能低下の直接の原因となっている傷病または特定疾病の経過及び投薬内容を含む治療内容

(最近(概ね6ヵ月以内)介護に影響のあったもの 及び 特定疾病についてはその診断の根拠等について記入)

脊柱管狭窄症による座骨神経痛の為、下肢に痺れを自覚。陳旧性脳梗塞でも左上肢に軽い痺れを生じている。鎮痛剤、降圧剤を使用中。

2. 特別な医療 (過去14日間以内に受けた医療のすべてにチェック)

処置内容 点滴の管理 中心静脈栄養 透析 ストーマの処置 酸素療法 レスピレーター 気管切開の処置 疼痛の看護 経管栄養特別な対応 モニター測定 (血圧、心拍、酸素飽和度等) 褥瘡の処置失禁への対応 カテーテル (コンドームカテーテル、留置カテーテル 等)

3. 心身の状態に関する意見

(1) 日常生活の自立度等について

・障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度) 自立 J1 J2 A1 A2 B1 B2 C1 C2・認知症高齢者の日常生活自立度 自立 I IIa IIb IIIa IIIb IV M

(2) 認知症の中核症状 (認知症以外の疾患で同様の症状を認める場合を含む)

・短期記憶 問題なし 問題あり・日常の意思決定を行うための認知能力 自立 いくらか困難 見守りが必要 判断できない・自分の意思の伝達能力 伝えられる いくらか困難 具体的要求に限られる 伝えられない

(3) 認知症の行動・心理症状 (BPSD) (該当する項目全てにチェック: 認知症以外の疾患で同様の症状を認める場合を含む)

 無 有 → 幻視・幻聴 妄想 昼夜逆転 暴言 暴行 介護への抵抗 徘徊 火の不始末 不潔行為 異食行動 性的問題行動 その他 ()

(4) その他の精神・神経症状

 無 有 [症状名: 専門医受診の有無 有 () 無]

被保険者番号																			
---------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(5) 身体の状態
 利き腕 (右 左) 身長 155 cm 体重 42 kg (過去6ヵ月の体重の変化 増加 維持 減少)
 四肢欠損 (部位: _____) 男・女
 麻痺 右上肢 (程度: 軽 中 重) 左上肢 (程度: 軽 中 重)
 右下肢 (程度: 軽 中 重) 左下肢 (程度: 軽 中 重)
 その他 (部位: _____ 程度: 軽 中 重)
 筋力の低下 (部位: _____ 程度: 軽 中 重)
 関節の拘縮 (部位: _____ 程度: 軽 中 重)
 関節の痛み (部位: _____ 程度: 軽 中 重)
 失調・不随意運動 ・上肢 右 左 ・下肢 右 左 ・体幹 右 左
 褥瘡 (部位: _____ 程度: 軽 中 重)
 その他の皮膚疾患 (部位: _____ 程度: 軽 中 重)

4. 生活機能とサービスに関する意見

(1) 移動
 屋外歩行 自立 介助があればしている していない
 車いすの使用 用いていない 主に自分で操作している 主に他人が操作している
 歩行補助具・装具の使用 (複数選択可) 用いていない 屋外で使用 屋内で使用

(2) 栄養・食生活
 食事行為 自立ないし何とか自分で食べられる 全面介助
 現在の栄養状態 良好 不良
 → 栄養・食生活上の留意点 (_____)

(3) 現在あるかまたは今後発生の可能性の高い状態とその対処方針
 尿失禁 転倒・骨折 移動能力の低下 褥瘡 心肺機能の低下 閉じこもり 意欲低下 徘徊
 低栄養 摂食・嚥下機能低下 脱水 易感染性 がん等による疼痛 その他 (介護負担軽減・重度化予防)
 → 対処方針 (リハビリ・筋力トレーニング)

(4) サービス利用による生活機能の維持・改善の見通し
 期待できる 期待できない 不明

(5) 医学的管理の必要性 (特に必要性の高いものに下線。予防給付により提供されるサービスを含む。)
 訪問診療 訪問看護 訪問歯科診療 訪問薬剤管理指導
 訪問リハビリテーション 短期入所療養介護 訪問歯科衛生指導 訪問栄養食事指導
 通所リハビリテーション 老人保健施設 介護医療院 その他の医療系サービス (_____)
 特記すべき項目なし

(6) サービス提供時における医学的観点からの留意事項 (該当するものを選択するとともに、具体的に記載)
 血圧 (減塩食の継続) 摂食 (_____) 嚥下 (_____)
 移動 (移動時介助必要) 運動 (_____) その他 (_____)
 特記すべき項目なし

(7) 感染症の有無 (有の場合は具体的に記入してください)
 無 有 (_____) 不明

5. 特記すべき事項

要介護認定及び介護サービス計画作成時に必要な医学的なご意見等を見守りに影響を及ぼす疾病の状況等の留意点を含め記載してください。特に、介護に要する手間に影響を及ぼす事項について記載してください。なお、専門医等に別途意見を求めた場合はその内容、結果も記載してください。(情報提供書や障害者手帳の申請に用いる診断書等の写しを添付していただいても結構です。)

1. しびれの為、歩行がしづらく、廃用気味になっております。リハビリが望まれます。
2. トイレに行くのが大変な為水分を控えている様ですが、脱水予防の為一定量の水分摂取が必要。

前回の要介護認定における主治医意見書作成時点と比較して
 「介護の必要度」が 少なくなった ・ あまり変わらない ・ 多くなった
 要介護認定結果の情報提供を希望 : する しない